

和歌山大学学生自主創造支援部門（クリエ） クリエプロジェクト
＜2024年度ミッション成果報告書＞

プロジェクト名：交通たび企画「めーぷる」

ミッション名：ローカル線で貸切列車運行ミッション

ミッションメンバー：観光学部1年陣野大誠, システム工学部1年秋谷快勇, 観光学部1年田村心花, 観光学部1年肥後優花, システム工学部4年香山力也, 観光学部1年米窪愛美, システム工学部1年西村柊彩, 経済学部1年佐々木康輔, 社会インフォマティクス学環1年中野真和, 観光学部1年戸山怜音, 観光学部1年新家礼響, 教育学部1年山田朝貴

キーワード：貸切列車 イベント企画運営 旅行商品 アイデア構想 ローカル線

1. 背景と目的

本ミッションは、ローカル線を活用した貸切列車イベントを通じ、メンバーの企画・運営スキルの向上を図ることを目的として実施した。代表者は、高校時代より九州地方で個人主催の貸切列車イベントを多数実施してきた。その活動を通じて、単に鉄道を楽しむだけでなく、鉄道を活用したイベントの企画や旅行商品の開発に関心を持つようになった。この想いに共感する仲間が集まり、貸切列車を一般参加型の企画旅行として運営するプロジェクトが発足した。

具体的な目標として、本団体の認知度向上を目的とした一般参加者向けの参加費無料の貸切列車モニターツアーを実施した。この取り組みを通じて、以下の成果を目指した。団体の基盤整備として、イベントを通じ、持続可能な組織運営体制を確立すること。ノウハウの共有として、貸切列車運行の企画・実施のプロセスをメンバー間で共有し、スキル向上を図ること。ここで得られた知見、初回モニターツアーで得られた反省点や改善点を次回以降のイベントに活かすこと。

最終的な到達点として、ミッションによる外部資金援助に頼ることなく、団体内で安定した資金運用を行い、定期的に貸切列車イベントを開催できる体制の確立を目指す。今後もこの目標を掲げ、持続可能な活動の実現を目指していく。

2. 活動内容

2.1 事前準備と組織体制の整備

本プロジェクトは、6月より活動を開始し、まずは将来的に発生する金銭の受け取りや運営面の整備を見据え、ホームページおよびSNSアカウント（図1-1,1-2,1-3）の開設を進めた。また、他団体の規約を参考にしながら、会則およびプライバシーポリシーを作成し、組織運営のための基盤づくりを実施した。これにより、貸切列車同好会「めーぷる」としての体制が固まり、各メンバーの役割分担やタスク管理が明確化された。



図 1-1



図 1-2



図 1-3

2.2 試験イベントとしての熊本電鉄での撮影会

2024年10月20日、熊本電鉄を利用した撮影イベントが開催された(図2)。このイベントは、代表者が高校時代に実施していた「赤パンツアーの会」での経験を踏襲し、知人を招待する形で行われた。イベント運営のプロセスは、事前の企画会議から当日の運行、終了後の反省会に至るまで、全メンバーで詳細に共有され、貸切列車運行の具体的な手順やリスク管理の重要性を全体で認識した。



図 2

2.3 初回モニターツアーの計画と実施

本ミッションの中心となる初回モニターツアー(図3)は、一般参加者を対象に参加費無料で実施され、団体の認知度向上と広報効果を狙った。開催日は2024年12月8日と定め、複数の関西圏の地方鉄道(地元和歌山電鉄を含む)を比較検討した結果、周辺人口の多さや話題性の点から、京都府の叡山電鉄線が最適な開催地として選定された。ツアーでは、参加者に対して貸切列車内でのクイズ大会など、沿線の魅力を楽しく伝える企画が盛り込まれ、イベントの盛り上がりを図るとともに、鉄道ファンのみならず広範な層からの関心を集められるよう意識をした。



図 3

2.4 広報活動と創意工夫

広報活動においては、SNS(Twitter、Instagramなど)を中心に情報発信が行われ、イベント前後の運行状況や模様をリアルタイムに報告した。また、YouTubeにて映像での報告が実施され、鉄道雑誌にも代表による記事が掲載されるなど、多方面で反響を得た。加えて、通常は乗車中に入れず留置線の活用など、鉄道ファン向けの企画として独自性のある取り組みを実施した。車内クイズ大会(図5)やオリジナルの「たびのしおり」(図6)などを通して、沿線地域の歴史や魅力を参加者に伝える工夫がなされ、イベント自体の魅力度を高められるよう取り組んだ。



図 4 車両掲出のオリジナルヘッドマーク



図 5



図 6

3. 活動の成果や学んだこと

3.1 活動成果

本ミッションの成果として、以下の点が挙げられる。

- ・運営体制の確立： ホームページ、SNS、会則、プライバシーポリシーの整備を通じ、組織運営の基盤が固まった。
- ・実践的経験の蓄積： 熊本電鉄での試験イベントおよび初回モニターツアーの実施により、イベント運営に必要なスケジュール管理、タスク分担、リスク対策が実践的に学べた。
- ・広報効果の向上： SNS や各種メディアへの情報発信により、一般参加者および鉄道ファンからの反応が得られ、団体の認知度が向上した。
- ・企画力と創意工夫： 車内クイズ大会や留置線活用など、通常とは一線を画した企画が成功し、今後のイベントに活かすべき創意工夫の実例となった。

3.2 学び

ツアーを企画・運営する中で、スケジュール管理やタスクの分担など、メンバー間でのマネジメントについて深い学びを得た。多様な考えを持つメンバーが一つの目的のために集まり、各自の意見・意志をしっかりと把握しながら適切な役割を与えツアー運営のためのタスクを実行するプロセスは、メンバーそれぞれにとってマネジメントについて実践的に学ぶ機会となった。さらに、過去事例との差別化を図った新たなアイデアを創出する上で、その実行には一層の苦勞が伴うことを実感した。また、広報活動においては、対象を広く取りすぎた結果、ターゲットの明確な絞り込みができず、中途半端な印象を与えてしまったという反省があった。これを踏まえ、SNS の活用法や発信の手法について、より具体的かつ効果的な改善策を模索することができた。加えて、リスク管理の重要性も学んだ。事前に想定される様々なトラブルに対して、どのように対処すべきかを計画し、迅速な対応策を考えるプロセスは、実際の運営における具体的な手法として非常に有益であった。このように、ミッションを通してイベント作りの大変さ、特に一般の参加者を巻き込む際の困難さを実感すると同時に、その苦勞を乗り越えた先にある楽しさや達成感についても学ぶことができた。今回の経験は、今後の活動や企画運営において、管理能力やリスクへの備え、広報戦略の重要性を再認識する貴重な学びとなった。

4. 今後の展開

初回モニターツアーでは多くの成果を上げることができたものの、会員数の増加や参加者の集客の面において予想以上の苦戦があった。また、SNS を活用した広報活動においても、想定よりも投稿の伸びが芳しくなく、広報戦略の見直しが求められる結果となった。これらの課題に対応するため、団体は資金調達的手段としてクラウドファンディングを実施し、団体設立への賛同を広く募るとともに、他のイベント企画団体との連携を模索することで、貸切列車内での共同イベントなど新たな企画展開を図る方針を検討している。さらに、ターゲット層の再分析を基に効果的な情報発信方法を導入し、SNS 投稿の内容や頻度を改善することで、より多くの参加者の獲得を目指す。来年度に向けては、和歌山県内で大学前期に貸切列車イベントを計画し、今回得た知見を活かして、ビジネスライクかつ持続可能な運営体制の構築、会員数の増加、ツアー運営の損益分岐点ゼロの達成を目指し、団体の自立運営を実現することが展望

される。

最終的には、貸切列車運行のノウハウを広く伝える活動にも取り組んでいく意向である。こうした活動により、組織運営力、企画力、コミュニケーション力といった実務的なスキルを着実に向上させ、情報発信の技術やマーケティングの基礎を習得することにもつなげていきたい。

5. まとめ

本ミッションでは、貸切列車イベントを通して組織運営の基盤整備や実践的な企画運営スキル、リスク管理の重要性を学んだ。各メンバーが一丸となり、試験イベントやモニターツアーの企画・実施に取り組む中で、広報活動の効果向上や新たなアイデアの創出にも成功した。これらの成果は、今後のクラウドファンディングや他団体との連携、持続可能な運営体制の構築へとつながると確信している。私たちは、情熱と創意工夫をもって活動を継続し、着実にスキルを向上させながら、より多くの参加者に喜びを提供できるイベントを創出していく。

また、代表者の感想として、まず一般の人々を巻き込んでイベントを実施する場合、考慮すべき事項が多岐にわたることを改めて実感した。また、鉄道会社の貸切イベントという特性上、根本的な難しさが存在するため、企画・運営ともに大変であることは否めない。しかしながら、その困難さを乗り越えて実際に取り組んでみると、楽しさを感じると同時に、未来や将来への展望について考える機会となり、企画に対する新たな興味や可能性を見出すことができた。

末筆ながら、本ミッション実施にあたりご協力いただいた鉄道会社様及び参加者の皆様、そしてクリエイ関係者の皆様に感謝申し上げます。